



# REINANZAKA SCOUT CLUB



2025年  
12月1日号

発行：靈南坂スカウトクラブ／日本基督教団靈南坂教会内  
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-14-3  
<http://reinanzaka-sc-trp4tokyo.jp>



No. 64

## 「与えては与えられて」 灵南坂教会 伝道師 椿 克也



スカウトの創始者ベーデン・パウエルは最後の遺言でこのような言葉を残しています。「幸福を得る真実の方法は、他の人々に幸福を分ち与えることなのです。君達が生まれた時より、この世をほんの少しでも良くすれば、死に臨んだ時には、ともかく自分の時間を無駄にせず、最善を尽くせた、と感じつつ、幸福に死ぬことができます」聖書の言葉の中にも「受けるよりも与える方が幸いである（使徒 20:35）」と記されています。私たちは普通、食料や金銭、地位や名誉など受ける方が幸いなことばかりの世界を過ごしています。その中で、こう語る聖書やパウエルの言葉に私たちは、「本当に与える方が幸いなのか？与えることで自分のもとから色々なモノがなくなるからむしろ不幸ではないか？」と思ってしまいます。私もその一人でした。

しかし、この靈南坂教会に着任し、スカウト活動を見たり、時に参加したりするようになり、その教えが間違いないということを確信できたように思えます。それぞれが自分の持つ知識や技術、食べ物などを与える。与えられた人はそれを受けるだけではなく、次の誰かにそれらを与える。その繋がりの中で、スカウトに来る子供たちは皆、楽しく、幸せそうな顔をしているのです。私もGSの担当として時に自分の持つキリスト教や教会に関する知識を授けたり、相談事に乗ったりすると、その分、皆に喜ばれます。そして同時に私もスカウトの仲間から様々なモノをいただき、幸せな気分になります。自分の持つモノを分け与えることによって、幸せは広がっていくのをまさに私はこのスカウト活動を通して、実体験として感じています。

主イエスは最も重要なこととして「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。同じように隣人を自分のように愛しなさい。

い（マタイ 22:38~39）」と語っていますが、まさに心を、精神を、思いを尽くして隣人を愛するということがこのスカウト活動の根幹にはあるように思います。この時代、SNS やオンライン技術の進展によって、私たちの個人主義化は加速し、他者を思い、様々なモノを分け与えることを忘れ、幸福から離れているように思えます。しかし、そのような社会にあって、分け与えることを知るこのスカウトの活動は大変意義のある活動であると思います。

そのようなスカウト活動に携わり、支えていくことができることをありがたく思います。これからもスカウト活動を通して、与えられ、与えていくその精神を引き継ぐ活動を続けてほしいと願っております。

Guid others to happiness and you will bring happiness to yourselves as by doing this will be doing what God wants of you.



ベーデン-パウエル卿の言葉

他の人を幸せにしなさい。そうすれば貴方も幸せになる。何故なら、そうすることは、神があなたに求めていられるだから。



## ボーイスカウト・ガールスカウトの活動

### (ボーイスカウト)

#### 「2025年カブ夏キャンプ報告」

デンリーダー 山菅 祐一郎

1泊2日、紅葉台キャンプ場で実施しました。全員が初めてのカブ夏キャンプで、野外調理、湖水浴、ハイキング、キャンプファイヤーを楽しみました。お互いに助け合い、自然を体感する姿を見て、指導者としても大変嬉しかったです。今後の成長が楽しみです。

しか 中島 正志朗

花火を近くで見たことが一番の思い出です。近くで見たらとても大きくてきれいでした。みんなで料理をしたのも楽しかったです。僕は肉を焼く係で、焼き肉のタレを使っておいしくできました。組長として夜の会議でリーダーと話したのもうれしかったです。朝に見た富士山は、光っていてきれいでした。来年のキャンプも楽しみです。

しか 藤 新

ぼくがキャンプで1番良かったと思った出来事は、湖で泳いだ事です。理由は、みんなと湖で泳いだり、鬼ごっこをしたりして楽しかったです。もう1つは、みんなとコウモリ穴に行ったことです。理由は、涼しかったので鍾乳洞が見られて嬉しかったし、こっそりコウモリが見られたのでラッキーだと思いました。色々なキャンプの思い出がありました、次回もやりたいです。

うさぎ 佐々木 新

ぼくが一番楽しかったのは、西湖で泳いだことです（さい湖サイコー！）。湖で泳ぐのは初めてでした。ゴーグルをつけてもぐったら、プールとちがって、水が茶色で何も見えませんでした。自分たちで作った野菜炒めはお肉がとくにおいしかったです。コウモリ穴の探検は、びちょびちょでくさいところを歩きました。中はせまくて頭をぶつけました。次のキャンプではテントで寝てみたいです。

うさぎ 渡邊 漣

僕は初めてカブスカウトのキャンプに行きました。湖で泳いだり、木で作った水鉄砲で遊んだりしたことがとても楽しかったです。夜は花火大会があり花火をみんなで見ました。音がとても大きくておどろきました。洞窟探検にも行きました。洞窟は狭くて暗く、少し寒くて怖かったけれど、みんなで最後まで進めて思い出になりました。

うさぎ 島貫 隆太郎

キャンプの1日にみんなで湖で遊んで楽しかった。夜ごはんの肉野菜炒めを作るのは大変だったけどおいしかったです。朝起きてごはんを食べてモーニングゲームをやったのも楽しかったです。行きと帰りのバスで食べたおかしもおいしかったです。

うさぎ ラム エリオット

8月にカブスカウトとキャンプ場に行きました。そこで最初に西湖で泳ぎました。いい気持ちでした。そして肉野菜炒めを食べました。ねて、朝ごはんを食べました。そしてコウモリ穴に行きました。泥水やデコボコしているところがありました。とがったところをつかんで、おもしろいと思いました。



(西湖：サイコー！)

### (ガールスカウト)

#### 「2025年プラウニー夏キャンプ報告」

プラウニ一部門 平田美奈

今年のキャンプでいちばん楽しかったことは、みんなとなかよしになり、海遊びでは貝やシーグラスを見つけてミニゲームもしたことです。楽しいキャンプになりました。

ソングのタベでは、みんなとキャンプのおまじないなどうたをいつしょにうたいました。のこぎりやまでは大きなほとけさまを見ました。落ちそうなくらい高くて少しこわかったです。

スタンツはっぴよう会では、みんなげきやうたをやっていました。みんなよかったです。クラフトもしました。色ぎめをして、くふうしてハートがたのこもの入れの小さいバッグを作りました。スカウツオウンでは、人々へのかんしゃの気持ちを言って、その後花火をしました。宿でのご飯の時は、近くのともだちとおしゃべりをしながら食べたので、いつもよりたくさん食べられました。

このキャンプは自分がリーダーになってほうこくやみんなをまとめたことで、リーダーが大変なことがわかりました。

121だんとの合同キャンプでした。121だんと9月に会うときは、もっとなかよくなつてあそびたいです。



### 「野営チームの夏キャンプの思い出」

2025年度夏野営チームはジュニア部門17人、シニア部門10人、レンジャー部門4人、リーダー11人、スタッフ6人（椿伝道師含む）、キッズ4人

8月5日から7日 聖ヨゼフ学園山中湖林間寮、2泊3日 山中湖では珍しく暑い日の設営になったが、順調にテントを建て、野外調理、スカウツオウンをして初日を終え。二日目はカヌー、乗馬、カババス＆クラフトの3チームに分かれそれぞれ活動し、夜はキャンプファイヤーと打ち上げ花火、手持ち花火を楽しみました。三日目には早くも撤収作業を行い、BBQ、お土産タイムを楽しんで全員無事に帰路に着きました。



## ジュニア部門 6年 采木桜子

私は、今年ジュニア最後の夏キャンプに参加しました。今年のキャンプで私の心に残ったことは二つあります。

一つ目は、二日目のアクティビティでやったカヌーです。初めてのカヌーでしたが、他の学年の人と協力し、スイスイ進んで気持ちが良かったです。

二つ目は、夜にしたキャンプファイヤーです。その時はとてもつかれていたけれど、そのつかれも忘れるくらいスタンツや花火が楽しかったです。

そして、今回のキャンプでパトロールの他の子に、テントの立て方や火おこしの仕方を教えたりしたことで、私は自分が本当にジュニアの最年長になったのだと実感しました。一年生の時は六年生のお姉さんが何でもできる完璧な人たちのように見えていたのに、今は自分がその立場であることを今回のキャンプで実感できました。

これからもガールスカウトで色々なことを経験して、たくさん成長していきたいです。



## レンジャー部門 大島愛美

今回、山中湖のキャンプ場に行き、とても貴重な体験をすることができました。

1日目はテントを建てましたが、まだ建てたことの無いテントだったため思うようにいかず、トラブルやミスも多くありました。しかし、試行錯誤しながら完成させることができ、改善点も多く見つけられた一日でした。

2日目には牧場で乗馬体験をしました。馬にもそれぞれ性格があり、とても可愛らしかったです。また、馬は繊細でお世話が簡単ではないことも知り、命を預かることの大切さを学びました。この日は1日目の反省を生かしてテキパキ動けたのも良い経験でした。



(馬のお世話)

3日目はお昼にBBQをしました。火起こしに苦労しましたが、年下の子の様子を気にかけつつ、みんなで協力して楽しく食事ができました。三日間を通

して、自然の中で協力することの大切さや、新しいことに挑戦する喜びを実感することができ、とても充実したキャンプになりました。



(パエリア)

## 東京都連盟75周年記念事業 都連キャンプ

「なごむキャンプ」に参加して

レンジャー部門 新井曜子

今回参加した戸隠での都連75周年キャンプ「和むキャンプ」は、私にとって他の団と一緒に過ごす初めてのキャンプでした。普段同じガールスカウトといつても、団ごとに活動の仕方や使っている道具が違い、新しい発見や驚きがたくさんありました。その中で、最年長として周りをまとめたり、時間を意識して行動したり、自分で考えて素早く動くことの大切さを学ぶことができました。

戸隠ガールスカウトセンターはとても広く、自然も豊かで魅力的でしたが、慣れない虫との格闘や想像以上に大変だったハイキング、重いリュックを背負っての山登りなど、苦労することも多くありました。でも、そうした大変さも含めて振り返ると楽しい思い出となり、このキャンプならではの貴重な体験になりました。今回一緒に過ごした仲間や、戸隠で見た美しい景色を忘れず、これからこのキャンプもさらに楽しんでいきたいと思います。



(山登り)



(マシュマロ焼き)

## スカウトクラブ 会員のお便り

### 「ボーイスカウト回顧録」 大内眞人



#### <スカウト歴>

1967年～1971年 カブスカウト  
1971年～1975年 ボーイスカウト  
1975年～1978年 シニアスカウト  
1978年～1981年 ローバースカウト  
(シニアスカウトリーダー)

スカウトクラブ会報への寄稿依頼を頂き、何を書いても構わないという事で、長年勤めてきたラジオ業界の事を書こうかとも思いましたが、私の事をご存知ない皆さんとの共通点はやはりスカウト活動なので、私自身の紹介と過去の活動記録を兼ねて、スカウト時代の事を思い出しながら書かせて頂きます。とは言いましても、私は昔の事をあまり覚えておらず、学生時代の友人と会話すると、自分だけ記憶にない事がしばしばあり、ボーイスカウト活動についても、ハッキリと覚えているのはキャンプでの印象的な出来事なので、断片的な内容になる事をご容赦下さい。

私は今年2月に65歳になり、前期高齢者の仲間入りをしました。ボーイスカウト東京港第1団（旧東京第4隊）でスカウト活動を始めたのは7歳の時なので、60年近く前になります。当時は、ビーバー隊ではなく、小学校2年生の時にカブスカウト（現カブ隊）に入団しました。私はとても引っ込み思案な子供だったので、逞しくなって欲しいとの想いで、靈南坂幼稚園に通っていた縁から、母親が入団させたのだと思います。入団後に迎えた最初の夏のキャンプ（舎營）の時、私は初めて親元を離れる事になったのですが、それが嫌というか不安で、自宅の階段の手摺りに1時間以上、泣きながらしがみついていました。それでも、最後は母親に手を引かれて、急な江戸見坂を俯きながら登っていましたのを覚えています。キャンプ（舎營）中、どう過ごしていたかは全く記憶にありません。

それでも、毎年、夏にはキャンプ（舎營）に参加し、小学校5年生のカブスカウト最上級生の時には班長を務めましたが、他の班長に比べて大人しかった私は、最終日を前によく、「まじめで賞」という賞を貰ったのを覚えています。スカウトは皆、キャンプ中に一つ以上、賞を貰っていたと思いますが、目立った活躍のない私への賞として、リーダーが苦労して考えて下さったのだと思います。班長の役割である纏め役には、なかなかなれませんでした。

小学校6年生から中学校3年生のボーイスカウト（現ボーイ隊）時代は、本当のキャンプ（野營）になりましたが、かなりやんちゃな、今で言ういじめっ子的な少し上の先輩がいた事もあり、自ら行動を起こす事はなく、それまでの活動の流れに乗って地味に参加している感じでした。

高校1年生から3年生のシニアスカウト（現ベンチャー隊）時代から、少しずつ自分を出せるようになっていきました。1年生の時は、2年上の先輩が一人、1年上の先輩が一人、同期が一人、そして、3年生の時は、私は大学の附属高校でしたので活動していましたが、同期は受験で休み、1年後輩はおらず、2年後輩が4人という少人数で活動していました。

現在、スカウトクラブの会報を担当されている渡辺博さんと、第56号会報に寄稿されていた原陽一さんの2名のリーダーの下、主に、夏は移動キャンプ、冬は雪中キャンプを体験しました。移動キャンプは、自分達で決めたルートを重い荷物を持って歩きながら、神社仏閣等のテントを張れそうな場所を見つけて家主と交渉し、食事を作るための水やトイレなども貸して頂いて一泊するもので、30数年後に東日本大震災で大きな被害を受けてしまった岩手県の三陸海岸を歩くなどしました。

雪中キャンプは、地面を固めて雪のブロックを切り出し、防風を避けるためにそれをコの字型に積み上げて、その中にテントを張って生活するもので、苗場スキー場向かいの、今はなき浅貝スキー場近くで数日過ごしながら、スキーを教えて貰ったりしました。

そして、高校3年生の夏には、北海道の東端に位置する別海町で牧場経営をされていた清水功さんに、リーダーの渡辺博さんが連絡されたと記憶していますが、牧場の一画にテントを張らして貰いながら、牛の世話をするという体験型キャンプを経験しました。牛小屋の中の糞尿を片付ける作業では、余りの臭いに卒倒しそうになったのを今でもハッキリと覚えています。清水功さんは、ボーイスカウト東京港第1団（旧東京第4隊）の団歌を作詞作曲された方で、その後も40年余りにわたり年賀状の遣り取りをさせて頂きましたが、残念ながら2021年に亡くなられてしまいました。

大学1年生から4年生までは、ローバースカウト（現ローバー隊）として、シニアスカウト（現ベンチャー隊）のリーダーを務め、毎年、夏には移動キャンプを行い、高知県の海沿いを東から西に向かって歩き通した事などが印象に残っています。

大学卒業後はスカウト活動から遠ざかってしまいましたが、ボーイスカウト東京港第1団（旧東京第4隊）の50周年（1997年）と60周年（2007年）の際は、祝賀会の司会を依頼されました。スカウト活動の先輩である田中新二さんから、私が、ラジオ局に就職して、一時、アナウンスもしていた事からお声掛け頂いたもので、久しぶりに諸先輩方や後輩の皆さんにお会いし、交流を深める事ができました。勿論、70周年（2017年）の祝賀会にも参加させて頂きました。

小さい頃は内気で無口で人見知りだった私が、人並みの社会人生活を送れるコミュニケーションを取れるようになったのは、ボーイスカウトでの体験が大きく影響していると思っています。人として成長させて頂いたと同時に、もう一つ会得した事は、ボーイスカウト活動のモットーとなっている「備えよ常に」です。自分の慎重な性格もあるとは思いますが、何をするにも事前の備えを怠らないよう心掛けています。仕事でもプライベートでも、予想外の事は良く起りますが、そういう時でも、少しでも心技体が保たれるよう訓練されたのは、この時期の活動があつての事だと感じています。小学生の時に結婚式のリングボーイを務めさせて頂いた杉原正さんをはじめ、お名前を挙げれば切りがありませんが、私を育てて下さった皆様に、この場をお借りして感謝申し上げたいと思います。有難うございます。

## 「スカウトの思い出」



### <スカウト歴>

1958年：東京第4団ブラウニー入団  
1962年：ガールスカウト  
1967年：上級スカウト  
1970年：レンジャー  
ガールスカウトのリーダーを少し  
経験した後退団  
1974年：靈南坂教会にて結婚

私とガールスカウトとの出会いは、小学校二年生の入団式からはじまります。今から67年も前の事ですので、曖昧な記憶もございますが、思い出をたどってみたいと思います。

入団のきっかけとなったのは、若いリーダー達の行動力と明るさに感銘を受けた両親の「自分たちでは与えられないスカウトならではの体験が沢山あるのでは」との、強く暖かい想いででした。

そして当の私もブラウニー入団式の時から夢中になり、靈南坂教会に通う土曜日が毎週の楽しみとなったりのです。



ブラウニー3年生の時のキャンプ

1962年GSになって間もなくレディーBPが来日され、イギリス国家を合唱してお迎えした時の感動。戸隠の全国キャンプ、米軍基地内でのキャンプは特に忘れられない思い出です。

戸隠では初めてお会いする他県の皆さんのお話も珍しく。また当時は沖縄が日本に返還されていなかったので皆さんと戦争について語り合い、平和のために私たちになにができるかを真剣に考えてみたりしました。

米軍基地内でのキャンプは私と京都から参加したスカウトとの、二人テントでの体験でした。私達二人はちょっと不安でしたが、明るく元気なアメリカのスカウト達のおかげで、楽しいキャンプ生活を過しました。

そのキャンプの集いで、まだなじみのない「チェチエコレ」をご披露して好評でしたので、以来忘れられない歌の一つとなりました。その歌が60年以上経った今、孫の保育園で、小学校で、皆が知っている歌となり。時を越え世界中の子供達が歌っています。歌や芸術の力は永遠ですね。

上級スカウト（今はレンジャー？）の時の思い出の一番はナイトハイクです。山登りは不得意でしたが頂上に到着すると満天の星空が迎えてくれました。夢中で星座を観察している時、動いている星を発見した！と思ったら、なんとそれは人工衛星でした（笑）。

でもそれ以来、星座を見るのが大好きになり、今でも我家の屋上から眺めています。

## 南（石川）ひろ子

キャンプと言えばこんな事も。

熟睡していた私達は夜中に突然「リーダーがいなくなった」と起こされました。懐中電灯片手に外へ飛び出しリーダーの名前を呼びながら、暗闇を走り廻っていると、たおれているリーダーを発見！まず脈を取り、呼吸をたしかめ、大声でお名前を呼んでいると「ハイそこまで」と、リーダーがケロリと立ち上がったのです。一瞬呆然としましたが、ほっとしたのと驚きで、次の瞬間大泣きしてしまったのでした。この夜の事は今でも強烈に思い出されます。

母となり腕白な子どもたちの怪我をはじめ、日常のアクシデントの数々に身体が咄嗟に動いて対応できたのも、キャンプをはじめ救急法などスカウトでの学びのおかげ様かもしれません。

初めてリーダーとして永橋牧子リーダーのもと參加したキャンプも、なつかしい楽しい思い出です。

1970年太陽の塔をシンボルとした大阪万博が開催された時のこと。万博のテーマは「進歩と調和」。世界平和と国際理解の一助として四団のガールスカウトも参加する事となり、私もリーダーとして引率いたしました。

のちに息子達の引率者としてニュージーランドのサマースクールへ参加できたのも、この万博の経験が背中をおしてくれたからこそだと感謝しております。

家庭に入り一時期はスカウトからは遠ざかっておりましたが、久しぶりに牧子リーダーからのお誘いでAJISEP Japanのお手伝いをする機会をいただきました。教会へ伺うとターコ（西郷崇子）リーダーや恵子（木村恵子）リーダーはじめなつかしい皆様が迎えてくださり、実家に帰った時の様な暖かい気持ちになりました。

いつどなたにお会いしても、すぐに時が戻り笑顔とお話を花が咲く。かけがえのない絆。スカウトに入団し何よりも素晴らしいと思うのは、姉妹とも友人ともちがう心から信頼できる仲間に出会えた事です。

そしてスカウトとしての経験も、私を導き成長させてくれた、やはりかけがえのない素晴らしい時間でした。

この寄稿にあたりお世話になりましたリーダーの皆様に感謝をし、世界平和とこれからの靈南坂スカウトの皆様のご発展とお幸せを心から祈りつつ。日々ご尽力くださっているOB, OGの皆様の努力にも、重ねて感謝申し上げます。

### 2022年10月のランチ会にて



前列左から、山口房子(旧姓 鈴木)、西郷崇子、木田節子(遠藤)  
後列左から、川名キヨミ(豊田)、田中節子(犬飼)、川原るみ(百塚)、  
南ひろ子(石川)

# 靈南坂スカウトクラブ 告知板

## 「大槻兄を偲ぶ」

港第一団副団委員長 小崎 公平



2025年6月26日、大槻さんが90歳でご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

大槻さんには1977年に团委員としてご参加いただき、翌1978年にはボーイ隊長をお引き受けくださいました。スカウト経験をお持ちでない中での就任でしたが、真面目で誠実なお人柄と穏やかな笑顔で隊をまとめ、子どもたちも私たち指導者も安心して活動に臨むことができました。私は当時シニア隊に所属しており、隊付指導者として大槻さんと一緒に過ごしたのが縁の始まりです。それから2013年の秩父での夏季野営まで、約35年もの長きにわたり共に歩ませていただきました。しかしながら、2013年秋に脳梗塞で倒れて活動を休止しました。

大槻さんは、いつも誰よりも早く集合場所に来て、準備を整えておられました。地区の行事や教会のバザーでは、人がなかなか集まらない大変な仕事を「自分がやるから大丈夫だよ」と引き受けてくださり、黙々と働く姿が今でも目に浮かびます。バザー前日の幼稚園園庭の設営作業では、人手の足りない仕事を「やりますよ」と率先して引き受け、私たちは頭が下がる想いででした。

ときにはキャンプの夜、焚き火を囲みながら静かに話を聞いてくださったこともありました。若かった私は不安や悩みを抱えることもありましたが、大槻さんの落ち着いた言葉にいつも励まされ、「大丈夫、やってみよう」と前に進むことができました。その存在はまさに父のようであり、人生の大きな支えとなっていました。

ご病気で倒れられた後も、私の子どもたちの結婚式やスカウトの記念行事に、車椅子で足を運んでくださったことは忘れられません。

その姿を拝見するたびに、大槻さんとのつながりを大切にされるお心の深さを感じ、胸が熱くなりました。

2005年には、長年にわたりボーイスカウト運動にご尽力いただいた功績が認められ、かつこう章を授与されました。その歩みはまさに「永遠のスカウト」と呼ぶにふさわしいものであったと存じます。

大槻さんと共に過ごした日々、分かち合った時間の一つひとつが、今も私の心の中で大切な宝物として輝いております。長きにわたり導いていただいたご恩に、心からの感謝を捧げつつ、どうぞ安らかにお眠りください。

## 向殿和弘氏B S新团委員長紹介

2024年度末を持ちまして、長年团委員長を務められて来られました内藤正樹さんが、体力低下や体調思わしく無くない事も多くなり团委員長継続が難しいと判断し、退任を決意されました。全面的なバックアップを条件に向殿さんへ新B S团委員長を引き継ぐこととなりました。新团委員長の活動方針、就任の弁については本年育成会総会資料を参照願います。

ここでは過日インタビューしましたのでその内容をお伝えします。

- ・年齢/職業：53才/金融関係
  - ・家族：本人、妻、長男、長女、次女の5名：お子様全員当団スカウトです。
  - ・趣味：読書
  - ・モットー：正しく生きる
  - ・S Cに期待する事
  - 子や孫等へのスカウトの紹介
  - スカウト活動へ参加や協力
- B Sは団員維持限界、継続困難に向かいつつあります。まずは現スカウトへサポートを優先しつつ団運営を行っています。

## 【スカウト催事予定】

- ・S C会報64号発送：12/初
- ・スカウトクリスマス礼拝：12/13 土曜日  
16時～

## 会費の納入をお忘れではないですか？

スカウトクラブは現団への支援、会報印刷、通信費など、皆様の会費とバザーの収益金、賛助金で運営しています。毎年の納入をお願いいたします。

年会費：3000円/年

家族会員：2000円/年

入会金：1000円/入会時のみ

## 振込先「ゆうちょ銀行」

00170-4-765234

他行からの振込みの場合は下記宛てにお願い致します。

銀行名：ゆうちょ銀行

店名(店番)：ゼロイチキュウ(019)

預金種目：当座

口座番号：0765234

口座名称：靈南坂スカウトクラブ

## 【靈南坂スカウトクラブ役員】

会長	西郷崇子
副会長	田中新二
会計	臼井純一
総務	高玉 大
	塚田洋子
書記	檜垣君子、
通信	西谷芳美
	小田島典子
会報・団 会報	矢澤宏子
H.P.	渡辺 博
	臼井純一
教会・団	向殿和弘
	ボーイスカウト団委員長
	古谷久代
	ガールズカウト団委員長
監査	五十野和男

## 【バザー：10/25】



## 【召天者】

- ・荒垣恒英兄：2016/6/16
- ・大槻敬太郎兄
- ・塚田洋子姉
- ・高嶋（渡辺）廣子姉